

2012年10月24日

建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアム

第7期（2012-2013年度）総会 開催挨拶

理事をさせて頂いております鈴木でございます。

この DAAS の理事長を楨先生より御引き継ぎをさせて頂きましたが、DAAS をめぐる環境というのは、それほど楽観出来るものではないような気がいたします。色々な意味で会員の皆様方、国土交通省のご指導のもと、すすめて行かなければいけないところでございますが、本来の目的を如何に推進していくか一層の御示唆と御鞭撻を頂けなければいけないという風に思っております。

他の動きと申しまししょうか DAAS をめぐる動きといたしましては本日御越し頂いています社団法人建築家協会でも建築資料の収集、整理を金沢工業大学とともに立ち上げていらっしゃいます。また文化庁でも(仮)近現代建築資料館というものを立ち上げることになりまして本年度中には体制を掲げて来年度早々には活動を始めていこうという動きがございます。

この文化庁の(仮)近現代資料館といいますのは、実物資料、具体的に言いますと図面資料を収集・整理をして展示機能のある程度もつという組織でございます。場所としましては東京都・湯島の岩崎邸という重要文化財がございますがその隣の合同庁舎の一部を改装して活用ということで工事自体は完了したところでございます。こういう所が実物資料を保存するところでございますが、DAAS が扱っておりますデジタルコンテンツの公表、あるいは情報の交換ということで、文化庁の施設とも連携ができればということを考えております。先方も DAAS と何らかの形での協働を考えられればというようなことを言っておりますので、本年度末から来年度にかけて新しい DAAS の広がりが出るかもしれないということを期待しております。そのためにも我々本来の活動をさらに拡充して、色々なコンテンツを更に増強していく必要があるかと思っておりますので、皆様方の一層のご支援をお願いしたいと思います。甚だ簡単ではございますが、私の御挨拶とさせて頂きます。

DAAS 理事長 鈴木 博之